

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

アフターコロナを見据えたアウトドアツーリズム振興による関係人口の創出

2 地域再生計画の作成主体の名称

熊本県八代市、熊本県芦北町、熊本県氷川町

3 地域再生計画の区域

熊本県八代市、熊本県氷川町、熊本県芦北町の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

【1. アウトドアツーリズム推進環境の不足について】

○八代市の観光入り込み客数は新型コロナウイルス感染症流行以前の2019年は2,169千人だったのに対し、発生後の2020年は1,542千人と3割減少している（観光統計調査より）。また、V-RESASによれば、八代市内の宿泊客数はコロナ禍前の2019年の同月比で、2020年は最大-98%減、2021年は最大-60%となった月もあった。当圏域においても、アフターコロナ・Withコロナ時代に対応した、観光誘客対策は急務となっている。

○圏域のアウトドアコンテンツについては、現状、事業者別に事業を実施、PRを行っている状態であり、まとめ役となる圏域のアウトドアコンテンツをけん引する強力なリーダーとなる人材が不在の状態である。

○コロナ禍で注目されているキャンプについて、（※1）ソトレシピ総研の調査によると、コロナ終息後もキャンプを続けたいかという質問に対しては、74%が肯定しており、今後もキャンプ場の需要は継続して上昇する見込みである。当圏域においても、2022年に新規のキャンプ場がオープンする予定である。既存キャンプ場も含めて、情報を集約・一括発信し、キャンパーの誘客に努めることは喫緊の課題である。

○同研究所によれば、キャンプ経験者の内、1年以内にキャンプを始めた人は29%となるなど、初心者が多いこともうかがうことができる。当圏域には常設テントがあるキャンプ場もあるものの、キャンプ用品のレンタルもないことから、用具を持たない初心者が利用困難であることも、既存施設が活用できていない要因となっている。

○また、コロナ禍の中で移動手段として、全国的に自転車が目され、観光としても旅の移動手段に自転車を用いるサイクルツーリズムも流行している。2021年11月に熊本県の主導により、当圏域及び近隣都市の水俣市、津奈木町が連携する「八代及び芦北・氷川サイクルツーリズム推進協議会」が設立され、今後、自転車専用走行空間を示す矢印矢羽根表示の導入など、道路面の整備が実施される予定である。また、当該推進協議会では、2022年にルートマップの作成も予定されている。

一般社団法人ルーツ・スポーツ・ジャパンによる、サイクリスト国勢調査2021によると、サイクルツーリズム経験者は都市部で約45%、1年以内のサイクルツーリズム経験者は約17%だった。また、福岡市では、1年以内経験者は19.4%となっており、近隣県からのサイクリスト誘客可能性は十分に高い。一方でサイクルツーリズム経験者は地域選びの際に（※2）レスキューサービス、ガイド、自転車の配送・受け取りなどの利便性の高さを重視することがわかっている。当圏域においては、肥薩おれんじ鉄道株式会社が実施するサイクルトレインがあるものの、整備用の工具やサイクルラックの設置などの重要な受け入れ環境が不足している状況である。飲食店・物産店等にもサイクルラックがないため、サイクリストが立ち寄ることができず、せっかく来訪したサイクリストから、素通りされている状態である。

○遠方からのサイクリストを受け入れるために不可欠な、自転車の配送・受け取りサービスや、分解し持ち運んだ自転車を組み立てる際に必要なスペース、レンタサイクル、シャワー等を備える休憩設備といった重要な受け入れ環境もない状態である。

【2. 二次交通の脆弱性と地域資源の活用について】

○当圏域には、JR九州新幹線駅や国際クルーズ線受け入れ拠点のくまモンポートやつしろがあるが、圏域内の観光スポットが分散しているため、周遊には二次交通が必要不可欠である。しかし、現時点の移動手段はバス、タクシーまたはレンタカーのみであり、観光客にとっての利便性が低い。

○各観光地を連携してのプランが提示されておらず、圏域内の滞在時間が短くなっており、それが観光消費額の伸び悩みに繋がっている。

○当圏域内のキャンプ場は、新幹線駅であるJR新八代駅からやや離れた場所にあり、その上、二次交通も脆弱であることから、車両で訪問可能な近隣自治体に住まうキャンプファン以外の利用は困難な状態である。

○当圏域には生産量日本一の冬トマトや、あしきた牛といった、魅力的な食材が多数あり、ブランディングの向上に努めている。

【3. ブランディング力の低下、観光客との関係構築の阻害要因について】

○八代港の国際クルーズ船受け入れは、国際クルーズ船受け入れ港の整備を契機とした海外クルーズ客の受け入れのための環境の整備やヘルスツーリズムの構築といった事業を行ってきたものの、ブランディングの向上効果は発展途上であり、新型コロナウイルス感染症の流行も相まって、観光客数・宿泊客数は減少し続けている。

○当圏域におけるキャンプ場やアウトドアアクティビティなどの情報発信は3市町それぞれで行っており、統一された情報発信元がなく、十分なPRができていない状況である。

○観光客と接点を持つ圏域住民は宿泊施設・物産展のスタッフや、ボランティアガイドなど、接点のごく少数に限られており、当圏域にとっての交流人口から関係人口への発展が見込めない状態である。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

【八代市・氷川町・芦北町定住自立圏について】

八代市・芦北町・氷川町の3市町は、生産量日本一を誇る八代市の冬トマトやい草、全国的にも知名度の高い氷川町の梨や芦北町のデコボンなどの優れた農産物を生産する第1次産業に加え、八代市においては製紙工場などの製造業も盛んであり、地域一帯は田園工業地域として発展してきた。

しかし、全国的に進む人口減少・高齢化・生産年齢人口減少の問題は3市町にとっても共通の課題となっている。そのため、この問題に歯止めをかけるべく、八代市・氷川町・芦北町で定住自立圏共生ビジョンを策定し、それぞれの特性を活かし様々な分野で連携を行っている。（以下、本定住自立圏を当圏域と呼称する。）

※当圏域の人口減少・高齢化・生産年齢人口減少について（2015年→2045年の対比）

（地域経済分析システムRESASより）

- ・人口減少 157,127人→107,482人
- ・高齢化 32.85%→39.85%
- ・生産年齢人口減少 85,807人（54.61%）→ 51,868人（48.26%）

【事業背景】

当圏域には緑豊かな森林を持つ九州山地、天草諸島と九州本土に囲まれた穏やかな内海である八代海、日本三大急流の一つである球磨川を代表とする豊富な水資源など自然豊かな地域である。観光業でもそれら豊富な自然を活かした、トレッキング、ラフティング、伝統漁業などによる体験型コンテンツなどのアウトドアアクティビティが提供されている。

近年、全国的にキャンプブームが到来している。当圏域には新幹線の停車駅であるJR新八代駅があり、特に福岡市、熊本市、鹿児島市といった大都市からのアクセスはきわめて良好である。また、現存のキャンプ場に加え、八代市、芦北町では、新たなキャンプ場が整備されており、2022年にオープンする予定となっている。そのため、都市圏からのキャンパー客の増加が見込める状態にある。

さらに、当圏域にはなだらかな八代平野や八代海の景観を楽しめる海岸線などゆったりとしたサイクリングに適したルートがあり、また、九州山地に属する山岳地帯にはアップダウンの激しい上級者向けのルートもあり、ファミリー層から上級者まで、様々な形のサイクリングを楽しむことができる。また、2021年11月に当圏域及び近隣市町の水俣市・津奈木町を加えた5市町で、「八代及び芦北・水俣地域サイクルツーリズム推進協議会」を設立し、今後、サイクリストの誘致に向けて、道路面の整備を行う予定となっている。

【目指す将来像】

当圏域の3市町がそれぞれ策定している第2期総合戦略では、「地域資源を活かした多様な交流の実現」を目標としている。

日本遺産などの歴史文化や豊富な自然、景観などの地域資源を活用した、アウトドアツーリズムを推進し、圏域をアウトドアによるブランディングを行うことで、アウトドアファン層から選ばれる地域にすると共に、初心者やファミリー層が安心して、気軽に来訪できる地域にすることで、関係人口を創出し、「地域資源を活かした多様な交流」が進んだ圏域にする。

【数値目標】

K P I ①	サイクルツーリズムによる施設訪問者数						単位	人
K P I ②	キャンプ事業の利用申し込み数						単位	件
K P I ③	アウトドアイベント参加者数						単位	人
K P I ④	-						単位	-
	事業開始前 (現時点)	2022年度 増加分 (1年目)	2023年度 増加分 (2年目)	2024年度 増加分 (3年目)	2025年度 増加分 (4年目)	2026年度 増加分 (5年目)	K P I 増加分 の累計	
K P I ①	0.00	0.00	2,050.00	5,470.00	-	-	7,520.00	
K P I ②	0.00	0.00	1,000.00	1,500.00	-	-	2,500.00	
K P I ③	0.00	0.00	200.00	300.00	-	-	500.00	
K P I ④	-	-	-	-	-	-	0.00	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生推進タイプ（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

アフターコロナを見据えたアウトドアツーリズム振興による関係人口の創出

③ 事業の内容

【1. Withコロナ・アフターコロナに対応したアウトドアツーリズムの推進】

○圏域の自然を活かし、キャンプ・サイクリングの2つを柱とした、アウトドアツーリズムを推進することで、Withコロナ時代でも影響を受けにくく、また、アフターコロナ以降も継続して増加する見込みである、アウトドアファン層の誘客につなげる。

○圏域のアウトドアツーリズムをけん引する人材の育成及び新たな雇用を創出する。

○圏域の玄関口となるJR新八代駅に、アウトドアに関する観光情報を一括で提供し、キャンプ場、キャンプ用品、食材の入手などの予約受付をワンストップ行える機能を持ったゲートウェイ施設を整備する。

○初心者やファミリー層が気軽に来遊できる手ぶらキャンプ事業の構築。

○道の駅、飲食店等へサイクルラック、自転車整備用工具等を配備することで、サイクリスト受入環境の整備を行う。

○前述のゲートウェイ施設に、遠方からのサイクリストを受け入れるためのメンテナンススペースやレンタサイクルの貸し出しなどの機能を持たせる。

【2. 二次交通の強化と地域資源の活用について】

○スポーツバイク、e-バイクのレンタサイクル事業により、圏域内の二次交通を強化する。また、日本遺産などの歴史、文化資源、自然、既存の体験型アクティビティを活かした周遊ルートを構築し、滞在時間の延長及び観光消費額の増大を図る。

○周遊性を高めるため、サイクリスト向けガイドアプリを導入し、圏域3市町の地域資源を活用した周遊ルートを作成する。また、各地域の飲食店・宿泊施設などにサイクリストを受け入れる環境の整備を支援し、アプリケーション、WebサイトなどでPRを行う。

○キャンプ地までのキャンプ用品の配達サービスを行うほか、キャンプ用品が積載可能なレンタサイクルを配備し、遠方からのアウトドアファンに対応する。

○地元農業者と協力し、キャンプ客層へ地元食材、県産品の販売を行うことで、圏域への興味・理解を持っていただくきっかけづくりを行う。

【3. ブランディングの強化及び関係人口創出のためのプロモーション事業】

○コロナ禍やアフターコロナに向けて、当圏域で連携して、圏域のアウトドアアクティビティに関するプロモーションを行うことでブランド力を高め、アウトドアファン層の誘客に努める。

○3市町で連携し、アウトドアファン層にフォーカスしたオンラインツアー等の開催や、観光展への出展等による情報発信の強化を実施。

○マイクロツーリズムやワーケーションなどの反復性の高い旅行者へ、ターゲットにあわせた戦略的な情報発信を行うことで、交流人口の増加、関係人口の創出を行う。

○遠方在住者、近隣住民のサイクリストが同時に参加可能なサイクリングイベント、都心部在住者ビジネスマンと地元のビジネスマンの交流トークイベントなどの実施により、圏域住民と観光客の交流の場を提供し、関係人口の創出を図る。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

実施するサイクリング事業、キャンプ事業の売り上げにより確保した収益により、事業終了後も自走が可能となる。交付金終了後は推進協議会とアウトドアツーリズムを推進する地域企業の切り分けを行い、地域企業が自走し、事業を推進する。

【官民協働】

行政側は官民連携に向け、行政及び民間事業者で組織するくまなんアウトドアツーリズム推進協議会の設立を主導し、また、アウトドアツーリズムのためのマーケティング調査・戦略策定を実施する。策定した戦略を元に、官民一体となってアウトドアツーリズムの推進及び受け入れ環境の整備及び情報発信を行う。

【地域間連携】

3市町が連携し、本事業を展開することで、歴史・伝統・文化・自然といった多様な地域資源や体験型アクティビティなどの情報を集約しながらワンストップでお客様が予約できる場を設定することで顧客の利便性を大幅に強化する。

また、3市町一体となったプロモーションを実施していくことで、アウトドアファン層へのアピール力を強化する。

また、より、広域的に連携することで、様々な観光素材を活用したアウトドアツーリズムの推進を行うことが可能となり、滞在時間の延長に繋がる。

【政策・施策間連携】

アウトドアツーリズムの推進により、圏域のブランディングを図る他、観光や食、物産に係る地域経済への波及効果を増大させる。また、同時に二次交通の強化による利便性の向上、自然体験による環境保全への理解、健康な社会の構築など、さらに幅広い分野での効果がある。

【デジタル社会の形成への寄与】

取組①

サイクリスト用のガイドアプリケーションを導入し、圏域のサイクルルート及び文化・自然・歴史などの地域資源に関する情報を提供する。また、アプリケーションを活用した周遊型のサイクリングイベントを開催する。

理由①

地域版総合戦略に掲げる地域資源を活用した多様な交流の実現のため、アウトドアツーリズムの受け入れ環境構築にデジタル技術を取り入れることで、圏域内の周遊性を高めることができる。

取組②

アウトドアツーリズムを推進するためのWebページを構築し、圏域のアウトドアコンテンツについて一括で情報発信を行う。また、キャンプ・サイクリングに関する予約をWebページ上で用具レンタルや宿泊施設など一括で予約できるワンストップサービスを提供する。

理由②

観光客にとって利便性の高いワンストップ型Webサービスを構築することで、地域へのアクセスの契機を増やし、交流人口及び関係人口の創出に繋げる。また、地域の情報発信力を強化する。

取組③

圏域のアウトドアコンテンツに関する動画、ライブ配信などのオンラインコンテンツを配信し、伝統文化、自然環境、景観などの地域資源を活用したデジタルプロモーションを実施する。

理由③

ライブ配信などデジタル技術を使用したプロモーションを行い、継続した情報発信の取り組みを行うことで、圏域への誘客につなげる。

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4-2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【地方公共団体名】	【外部組織による検証】		
	【検証時期】	【検証方法】	【外部組織の参画者】
熊本県八代市	毎年度 5月	重要業績指標（KPI）の達成度の検証について、内部評価のうえ、外部検証組織により実施予定。必要に応じて事業の見直しを行う。	「やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議」 構成員：八代市、八代市市政協力員協議会、市内経済団体、市内農業団体、市内水産業団体、市内林業団体、市内交通事業者、市内製造業者、DMOやつしろ、熊本県南広域本部、市内高等教育機関、教育・防災関係者、地域金融機関、地域労働団体、市内報道機関、市内保育団体
熊本県芦北町	毎年度 6月	重要業績指標（KPI）の達成度の検証について、内部評価のうえ、外部検証組織により実施予定。必要に応じて事業の見直しを行う。	「芦北町総合戦略推進委員会」 構成員：県内高等教育団体、町内産業団体、金融機関、住民代表、行政機関
熊本県氷川町	毎年度 9月	重要業績指標（KPI）の達成度の検証について、内部評価のうえ、外部検証組織により実施予定。必要に応じて事業の見直しを行う。	「まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」 構成員：町内産業団体、地域農業団体、町内教育団体、県内高等教育団体、金融機関

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 84,933 千円

⑧ 事業実施期間

2022年4月1日 から 2025年3月31日 まで

⑨ その他必要な事項

特になし。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 該当なし。

ア 事業概要

イ 事業実施主体

ウ 事業実施期間

年 月 日から 年 月 日まで

(2) 該当なし。

ア 事業概要

イ 事業実施主体

ウ 事業実施期間

年 月 日から 年 月 日まで

(3) 該当なし。

ア 事業概要

イ 事業実施主体

ウ 事業実施期間

年 月 日から 年 月 日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から 2025 年 3 月 31 日 まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、5-2の⑥の【検証時期】に7-1に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。